今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.26
株式会社池田自動車運輸 様

いまの会社の礎となった「周りの方々との絆」物流の未来を見据えて社内体制強化へ

昭和 29 年の会社設立以降、70 年近くにわたって千葉県栄町で運送業を営んできた㈱池田自動車運輸（池田和彦代表取締役）。23 歳の時に同社に入社した池田社長は、3代目社長として 46 年間同社を率いてきたほか、トラック運送業界の発展にも多大な貢献を果たし、現在千葉県トラック協会副会長を務めている。
「長年会社を守ることができたのは、得意先の荷主の方々や、業界の同業者の仲間たち、そして苦楽を共にしてきた社員のおかげ」と語る池田社長は、多くの人々からの熱い期待に応えるべく、さらなる飛躍に向けて様々な取り組みを加速させようとしている。

白地にグリーンのラインが印象的な同社の大型トラックの前に立つ池田社長

■「働きやすい会社」を目指し労働環境の改善 長く働けることが高齢社員の生きがいに

㈱池田自動車運輸の歴史は、大正 13 年にタクシー事業を手がける会社として創業したところから始まる。昭和 29 年の会社設立以降、本格的に運送事業を開始。現在は千葉県内発のチャーター輸送を主力とし、栄町にある本社のほか、柏市や流山市、また栃木県などにも営業拠点を構えている。
同社にはおよそ 120 人のドライバーが在籍しているが、10 人ほどが 65 歳を過ぎてもドライバーとして活躍し、このうち 70 歳を過ぎたドライバーも４人いるという。また、倉庫部門でも 65 歳を過ぎた高齢者が活躍している。同社では 65 歳定年制を採っているが、健康で働く意欲の高い高齢者については引き続き同社で働いてもらうようにしている。

「当社では、定年を迎えた社員も引き続き元気に活躍できるよう、職場環境を整えています。例えば、高齢ドライバーに対しては、肉体的に負荷の少ない乗務についてもらうようにしています。また、乗務から外れた高齢社員にも、当社で何らかの形で引き続き頑張ってもらいたいとの思いから、夜間に実施する対面点呼の運転管理補助者として頑張ってもらっています。当社での仕事を通じて社会に参加し、社会的役割を持ち続けることが、高齢の社員にとっても生きがいになっているようです」（池田社長）

ドライバーが長い間安心して乗務を継続していくためには、高いレベルでの安全性向上や労働時間の削減など、労働条件改善への取り組みが求められることは言うまでもない。
同社では毎年２月と９月に全ドライバーを対象とした業務推進安全大会を開催（昨年９月と今年２月はコロナ禍の影響により中止）。外部講師を招き、交通安全に関する講習会を行うほか、社員に対する表彰を実施している。

池田　和彦　代表取締役

「定期的に安全大会を開催することで、ドライバーの安全への意識が飛躍的に高まるとともに、社員同士のコミュニケーションも良くなります。当社では、デジタルタコグラフのデータを基にドライバーの運転を点数制で評価し、優良な成績を残したドライバーに対しては大会で表彰を行っています。今後もデータを積極的に安全教育に活かしていくほか、日々輸送の現場で頑張っているドライバーの励みになるような新たな表彰制度を検討していきたいと考えています」（同）

同社では、労働時間削減への取り組みも進めている。本社が成田空港に近いということもあり、同社では航空貨物輸送も手がけている。輸入貨物の場合には、荷物の到着・通関を待つために、積込みを行うドライバーが長時間待機を強いられるケースも多く、労働環境改善が強く求められている。
こうした荷待ち時間を減らすための取り組みとして、同社では特定の荷主の荷物に関して、夜間に空港外の倉庫に横持ちしてもらうことにしているという。同社のドライバーは、翌朝同社のトラックに荷物を積込み、配送する。これにより、空港での長時間待機が減少したという。

運行管理補助者として、同社で活躍を続ける岩下真一さん（74 歳、写真右）

事務所のスタッフと談笑を交わす池田社長

ドライバーや倉庫係員に対する多彩な安全教育を通じ、安全運転・安全作業に繋げている

「この場合には横持ちの費用が発生しますが、『ドライバーの労働時間削減のためには必要な経費』だと荷主に説明させていただいた上で、ご協力いただいています。ドライバー不足が一層深刻化している中で、ドライバーの働き方改革の必要性や、事業者の法令遵守への取り組みに対しての荷主の理解は、少しずつですが進んできていると実感しています」（同）

また、ドライバー不足の深刻化は、同社にとっても大きな課題となっている。

人材確保に向けた取り組みとして、同社では一昨年まで、同社社員から外部の信頼できるドライバーを紹介してもらう「ドライバー紹介制度」を採用していた。同制度を通じて入社してきた社員は、現在でも全員が同社に在籍しているという。

さらに、多様な働き方を推進するという観点から、同社では令和元年に千葉県が進めている「“社員いきいき！元気な会社”宣言企業」への登録を実施。働き方改革関連法の一環として、同年４月より年次有給休暇５日取得が義務化されたこともあり、業務に支障がない形で社員に有給休暇を取得してもらうようにしている。

「それまでは、はなかなか有給休暇を与えられずにいましたが、年次有給休暇５日取得義務化を機に会社から休暇取得を促すようにしたことで、働き方に合わせて有給休暇を取得する社員が増え、社員の待遇改善に繋げることができました。また、昨年４月に告示された『標準的な運賃』をもっと活用し、ドライバーの労働環境改善を実現させることができれば、ドライバーの仕事を志す有望な若者ももっと増えてくると思います。『標準的な運賃』に対し、荷主の理解を促していくことも当然大事ですが、我々運送事業者の努力も今後一層求められてくるのではないでしょうか」（同）

さて、同社の３代目である池田社長は、高校を卒業後、５年半ほど電気機器メーカーで働いていたが、先代社長（父）からの強い要望で、23 歳の時に同社に入社した。その３年後、池田社長が 26 歳の時に専務取締役に就任すると、先代社長は経営の一線を退いた。そのため、池田社長はその当時から「実質的な社長」として、社業に奮闘したという。その後、平成２年社長に就任した。

そして、それとほぼ同時に、千葉県トラック協会青年部会に参加。池田社長は、それまで他の運送事業者との交流はほぼ皆無だったが、協会活動を通じて他の運送事業者との関係が生まれていくに連れて、同業者との交流の重要性を強く感じたという。

「私が運送業界に入って 46 年が経ちましたが、ここまでやって来れたのは、荷主の皆様や、私を支えてくれた社員はもちろんのこと、協会活動を通じて知り合うことのできた同業者の皆様のおかげだと感じています。今後も、周りの方々との絆を大切にしながら、社業に精一杯取り組んでいきたいと思います」（同）

最後に、今後に向けての同社の取り組みについて、池田社長に伺った。

「コロナ禍によって社会が劇的に変化したことで、『物流のデジタル化』は避けては通ることのできない大きな課題になっていると感じています。当社としても、決して立ち遅れるようなことのないよう、急速に進む IT 化に対応できるような社内体制の構築を加速していきたいと考えています」（同）

ホットにゅーす

■地元が一丸となって誘致活動を展開 カレン・ロバート氏がフットサル施設を開設

今年４月、千葉県栄町に

「ローヴァーススポーツパーク印旛」がオープンした。

ここは、市立船橋高校出身で、Ｊリーグや海外でも活躍したサッカー選手カレン･ロバート氏がプロデュースしたサッカー･フットサル施設。池田社長は栄町商工会会長も務めており、池田社長を先頭に同社など多くの地元企業が一丸となって誘致活動を展開した結果、同施設の開設に至った。

池田社長をはじめ多くの地元企業の関係者たちが、将来のサッカー選手を育てる同施設のさらなる発展に期待している。

同社の広告看板も掲げられているグラウンドに並ぶ、サッカー選手カレン･ロバート氏（写真右）と池田社長

企業プロフィール
株式会社池田自動車運輸
代表取締役　池田　和彦
本社　千葉県印旛郡栄町矢口神明 2-3-6
従業員　200 人（ドライバー 120 人）
台数　120 台